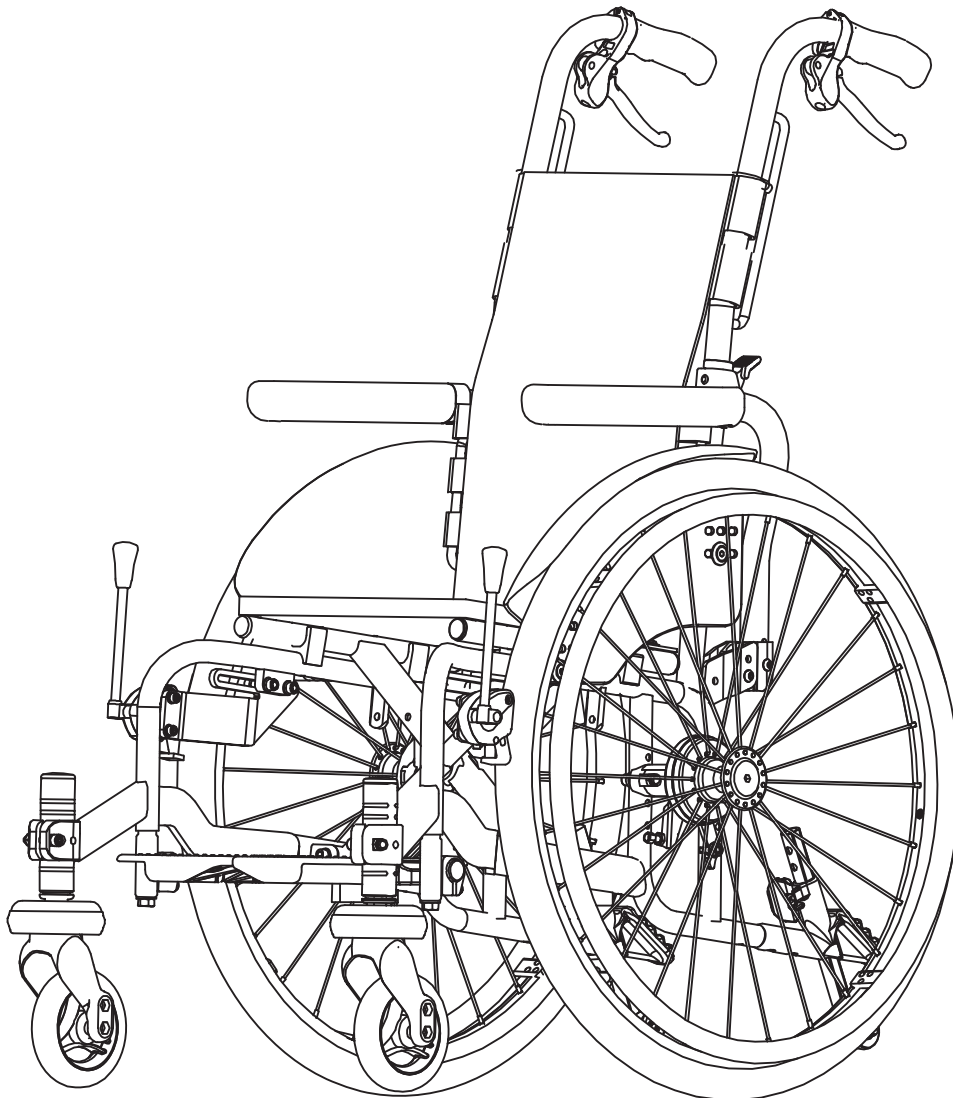


マツナガの車椅子

LUUK シリーズ

取扱説明書

保存用
保証書付



MATSUNAGA

このたびは、(株)松永製作所の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や使
い方が説明されています。

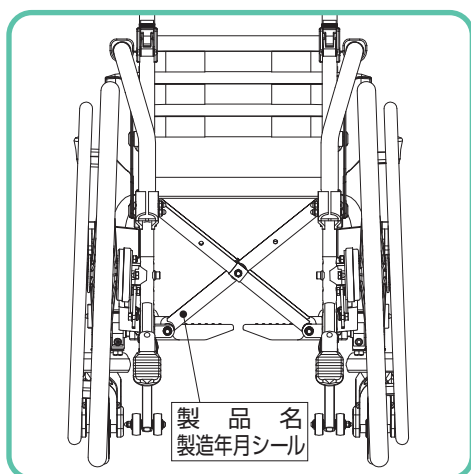
ご使用になる前には、必ずお読みください。

また、付属されている保証書は、紛失しないように大切に保管してください。

安全にご使用していただくため、定期的に点検をしていただくようお願いします。

車椅子が、身体に合わない状態でご使用にならないでください。健康をそこなう恐れがあります。
そのような場合は、購入されたお店または、かかりつけの病院にご相談ください。

購入された製品の機種名をご確認ください。機種名は、下記位置に表示してあります。

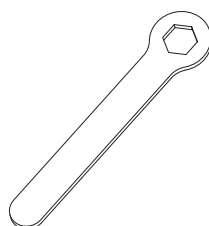


- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または、直接弊社までお問い合わせください。

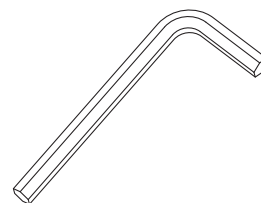
付属品



取扱説明書(当書)



スパナ 1本
(対辺13mm)



六角レンチ 1本
(対辺5mm)

ご使用前に

出荷時には検査をしておりますが、ご使用前に次のご確認をお願いいたします。

- 箱が破損したり、濡れたりしていないか。
- 各部の破損・キズ、フレームのゆがみ、ボルト・ナットや部品の脱落はないか。
- 付属品はすべて揃っているか。
- タイヤの空気圧は適正か。(タイヤを指で押さえ確認してください。)(P.6参照)

もし異常があればご使用にならず、すぐにお買い求めの販売店または、弊社までご連絡ください。

目次

安全にお使いいただくために(必ずお守りください)	2
機種別寸法一覧	4
各部の名称	4
機種別機能一覧	5
機能説明	5
ご使用方法	6
ご使用の前に	6
車椅子の拡げ方	7
車椅子の折りたたみ方	8
乗り方・降り方	9
動かし方	10
介助の仕方	11
外出時の注意	12
その他の注意	13
各部機能の使用方法	14
ブレーキの使用方法	14
フットサポートの調整	15
アジャスタブルフットサポート(前後左右&角度調整)	16
アームサポートの高さ調整	17
転倒防止の使用方法	17
ポケット	18
車椅子のオプション	19
もしこんなトラブルが発生したときは	20
車椅子のお手入れの方法	20
空気圧管理不要タイヤメンテナンス方法	22
保守・点検	23
車椅子 点検シート	23
消耗品・交換部品	23

安全にお使いいただくために(必ずお守りください)



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく表示の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容を示しています。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容を示しています。



警告

(禁止)



- 故障、異常のあるときは、使用しないでください。
事故、転倒などによるケガの原因となります。
- 改造しないでください。
改造によって車椅子の部品の破損、脱落などで安全性が低下して事故、転倒の原因となります。
- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
ブレーキのロックが出来なくなり、車椅子が動いたりして、事故の原因となります。
- フットサポートの上に乗って、乗り込んだり、立ち上がらないでください。
車椅子がバランスを崩し、転倒事故の原因となります。
- 車椅子のシートの上で立ち上がらないでください。
- アームサポート跳ね上げの場合は、アームサポートを持って、車椅子を持ち上げないでください。
転倒・転落事故の原因となり大変危険です。

(強制)



- 道路の通行は、必ず右側を通行してください。(歩道がある場合は歩道を通行してください。)
道路交通法規を守らないと、交通事故の原因となります。(車椅子は道交法上、歩行者と定められています。)
- 坂道の登り下りの時は、介助者の方が支えて行ってください。
スピードが出たり、バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。
- バックサポート折りたたみの場合、バックサポートがロックピンによって、完全にロックされていることを確認してください。
急にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故の原因となります。
- 車椅子への乗降時及び、ベッドへの移乗時などは、駐車用ブレーキをロックしてください。
車椅子が動き、転倒事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。
車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。





注意

(禁止)



- バックサポート及びバックサポートパイプに重いものを引っ掛けしないでください。
車椅子が不安定になり、転倒事故の原因となります。
- 車椅子を上げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをします。
- 介助者の方は、制動用ブレーキで急ブレーキをかけないでください。
車椅子に乗っている方が前方へ転倒する恐れがあります。
- アームサポートを跳ね上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。
破損の原因となります。

<p>(禁止)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■タイヤを持って車椅子を操作しないでください。 ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。 ■スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。 摩擦で、手にケガをする恐れがあります。 ■走行中、身体を乗り出さないでください。 バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。 ■車輪に、体の一部や物を差し込まないでください。 手や指を挟んで、ケガをする原因となります。 ■バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。 バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒事故の原因となります。 ■スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。 使用者が車椅子から転落して、事故の原因となります。 ■バックサポートが折りたたみの場合は、使用者が車椅子に乗っている状態でグリップを持って持ち上げないでください。 パイプが外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。 ■車椅子を横向きに倒して、上に物を置かないでください。 重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因となります。 ■バックしながら、急停止しないでください。 転倒事故の原因となります。 ■凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。 バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。 ■火気の近くに置かないでください。 タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。 ■使用者の移動目的以外では、使用しないでください。(台車の代わりに使用しないでください)
<p>(強制)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■車椅子を上げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。 パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因になります。 ■車椅子を折りたたむ際には、背シート・ポケットの中に物が入っていないことを確認してください。 ポケットの中の物を破損したり、車椅子の故障の原因となります。 ■介助者の方は、制動用ブレーキレバーを両側同時にかけてください。 バランスを崩し、転倒事故の原因となります。 ■フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。 フットサポートが脱落し事故の原因になります。 ■フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。 路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っ掛かり急に車椅子が止まり、転倒事故の原因になります。 ■乗り降り、駐車は平坦な場所で行ってください。 車椅子が動いたりして、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。 ■坂道を下るとき介助者の方は、車椅子を後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。 前向きで下ると、乗っている人がすり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。 ■側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。 車椅子が急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落・転倒事故の原因となります。 ■介助者の方は、移動中に使用者のつま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。 ■介助者の方は、フットサポートに使用者の足が乗っているか確認して走行してください。 ■安全ベルト装着機種は、ベルトを締めてください。 転落し事故の原因となります。 ■マジックテープに付いた糸くずや汚れを取り除いてください。 接着力が弱くなり製品機能を損なう恐れがあります。 ■車椅子を自動車に載せる(降ろす)際は、車椅子に大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。 車椅子の破損や故障の原因となります。

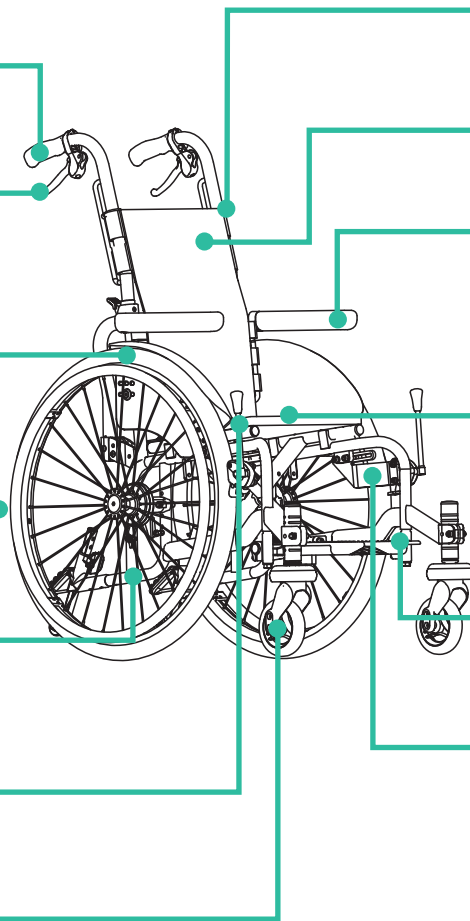
機種別寸法一覧

本体フレーム					
自走/介助	☐ 自走タイプ			☐ 介助タイプ	
車輪サイズ	☐ 4×20		☐ 4×22	4×16	
前座高 <small>*座シート奥行320mm時の前座高になります。</small>	☐ 375mm		—	400mm	
	☐ 395mm		—		
	—		☐ 415mm		
	—		☐ 435mm		
	—		☐ 455mm		
肘掛け高さ	☐ 210mm	☐ 220mm	☐ 230mm	☐ 240mm	<small>*前座高375/415mm時、肘掛け高さ210/220mmは選択できません。</small>
座幅	☐ 260mm	☐ 280mm	☐ 300mm		
	☐ 240mm	☐ 320mm	☐ 340mm		
座シート奥行	☐ 240mm	☐ 260mm	☐ 280mm	☐ 300mm	☐ 320mm
背シート高さ	☐ 415mm				
	☐ 350mm	☐ 480mm			
重量	12.8kg	前座375、座奥240、車輪20*1、アルミハンドリム、クッション込の場合			
折り畳み幅	340mm	前座375、座奥240、車輪20*1、アルミハンドリム、クッション込の場合			

各部の名称

自走用標準形・介助用標準形

- グリップ**
介助者が押すために使用します。
- 制動用ブレーキレバー**
介助者がスピードを調節するために使用します。
ブレーキの使用法 P.14
- 駆動輪(自走用)
主輪(介助用)**
駆動を伝える車輪
- ハンドリム**
自走用で駆動輪を操作するとき、使用します。
- ティッピングレバー**
キャストを上げたりするため介助者が足で踏むとき使用します。
- 駐車用ブレーキ**
乗り降りの時、車椅子が動かないようにするために使用します。
ブレーキの使用法 P.14
- キャスト(前輪)**



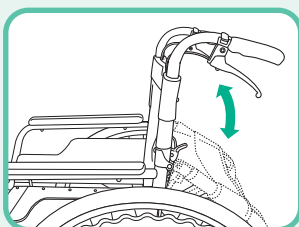
- バックサポートパイプ**
折りたたみ式です。
広げ方・折りたたみ方 P.7~8
- バックサポート(背もたれ)**
背をもたれかけるところです。
- アームサポート**
肘を乗せるところです。
- シート(座)**
座るところです。
- フットサポート**
足をのせるところです。
フットサポートの調整 P.15
- レッグサポート**
足が後方に落ちないように保護します。

機種別機能一覧

機種	タイプ	バックサポート	アームサポート機能	フット・レッグサポート機能	ブレーキ
					駐車用
LUUK-11	自走	折りたたみ	ストレートアームサポート	固定	ミニ
LUUK-12	介助	折りたたみ	ストレートアームサポート	固定	ミニ

機能説明

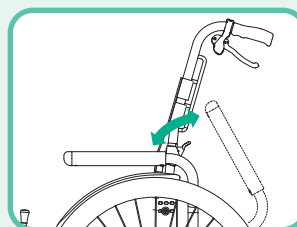
〈バックサポート〉



折りたたみ

背もたれパイプを折りたたみすることができ、自動車等への積み込みが容易に行えます。

〈アームサポート〉

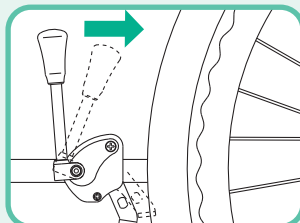


跳ね上げ

手で引き上げるだけで肘掛けの跳ね上げができます。ベッド等の移乗時に大変便利です。介助軽減にも役立ちます。

〈ブレーキ〉

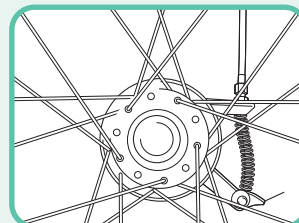
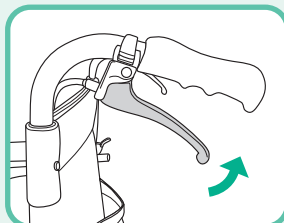
駐車用ブレーキ(引き掛け)



駐車用のブレーキです。乗り降りの際に車椅子が動かないようにするために使用します。

制動用ブレーキ(ドラム)

※オプションです。標準の車椅子には付属していません。



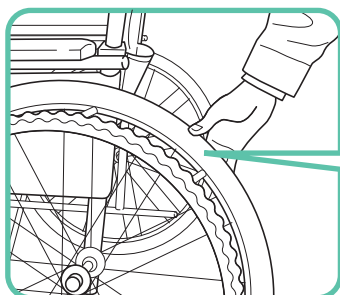
介助者のための制動用ブレーキです。走行中や坂道で速度を調整する際に使用します。

ご使用方法

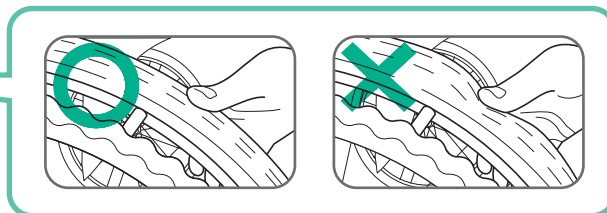
ご使用の前に

■ご使用前に、安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。
- ・タイヤの空気圧は適正か。
- ・ブレーキに異常はないか。
- ・ブレーキをロックした時、駆動輪・主輪が回転しないか。
- ・P.23点検表を参照してください。



タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、自転車用空気入れで空気を補充してください。



適正空気圧

自走:20、22インチ

700kPa(7.0kgf/cm²)

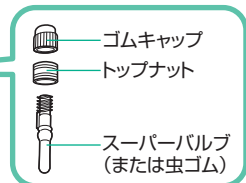
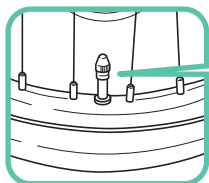
介助:16インチ

350kPa(3.5kgf/cm²)

タイヤの側面に記載されている表示を確認してください。

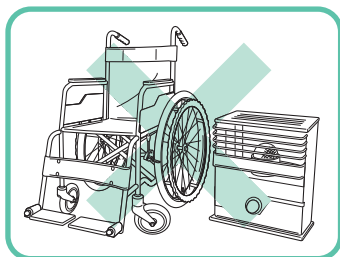
タイヤの空気バルブの
トップナットが緩んで
いないか確認してください。

タイヤの空気がすぐに抜けるときは、
スーパーバルブ(または虫ゴム)を
交換してください。



警告

- タイヤの空気圧が低い状態で使用しないでください。
(・ブレーキのロックができなくなり、車椅子が動き、事故の原因となります。
・タイヤのパンクの原因となります。
・タイヤの側面にひび割れが生じやすくなり、劣化を早めます。)
- タイヤの空気圧が高い状態で使用しないでください。
(空気圧が高いと、タイヤの破裂、リムの破損の原因となります。)



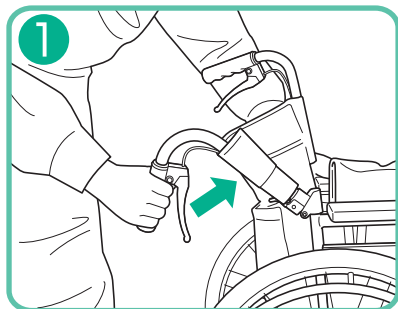
注意

- 火気の近くに置かないでください。
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。また、パイプ等が加熱されやけど等ケガの原因となります。)

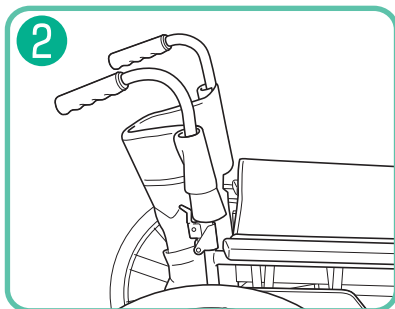
車椅子の拡げ方

*折りたたみ式バックサポートを起こす際は、必ず車椅子を折りたたんだ状態で行ってください。
(拡げた状態で行うと、背シートにバックサポートパイプが引っ張られ、ロック出来なくなります。)

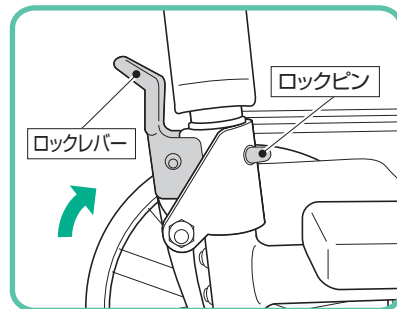
① グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げる。



② バックサポートを両側起こす。



レバーを矢印方向に起こす。



警告

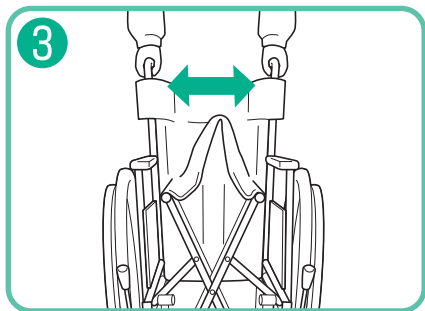
●バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ていることを確認してください。(急にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故の原因となります。)



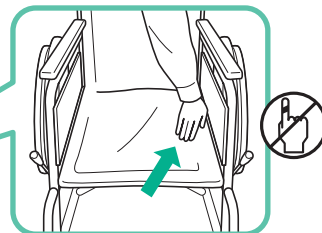
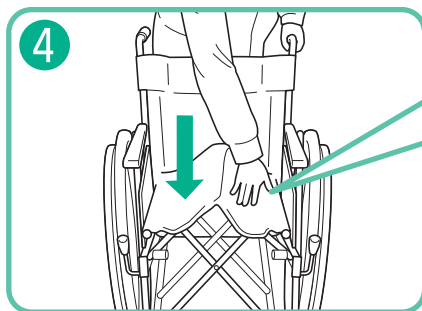
注意

●バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
(車椅子が不安定になり、転倒事故の原因となります。)

③ 車椅子の後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げます。



④ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、車椅子が拡がります。



※手・指に注意



注意

●車椅子を拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
(パイプに手や指を挟んでケガをします。)

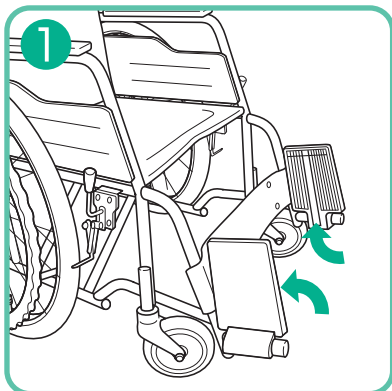


注意

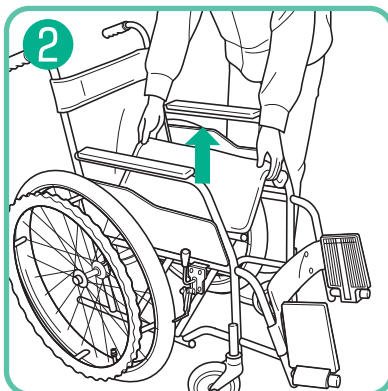
●車椅子を拡げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
(パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因になります。)

車椅子の折りたたみ方

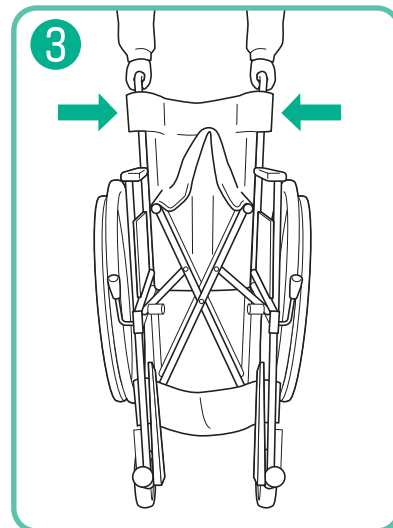
- ① フットサポートを矢印方向に回転させて上げる。



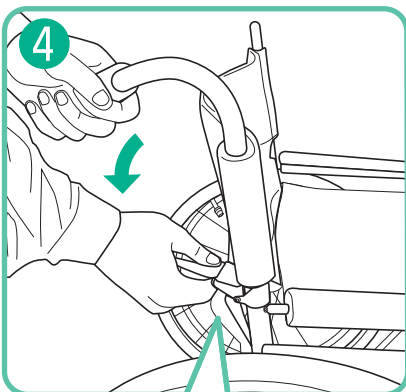
- ② シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げる。



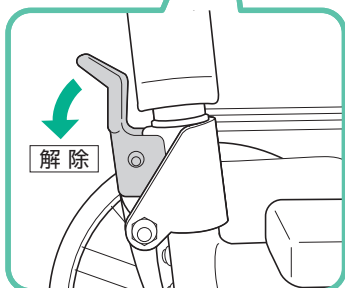
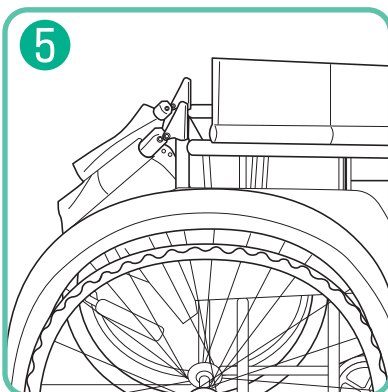
- ③ 左右のグリップを持ち内側にたたむ。



- ④ グリップを片手で持ち、レバーを後方に倒し、バックサポートを倒す。



- ⑤ バックサポートを両側後方に倒す。



⚠ 注意

- 車椅子を折りたたむ際には、背シート・ポケットの中に物が入っていないことを確認してください。(ポケットの中の物を破損したり、車椅子の故障の原因となります。)

乗り方・降り方

下記乗り方・降り方は、一例です。



警告

●車椅子に乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
(車椅子が動き、転倒・転落事故等の原因となります。)

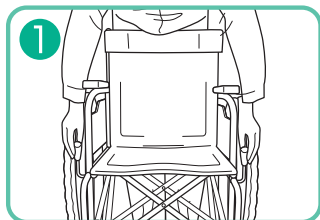


注意

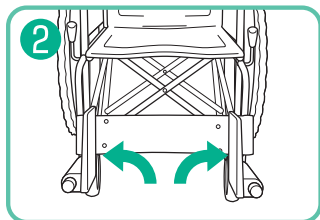
●車椅子の乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。
(車椅子が動いてバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。)

乗る時

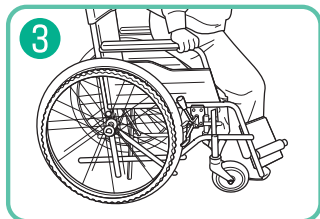
① 駐車用ブレーキを両側ロックします。



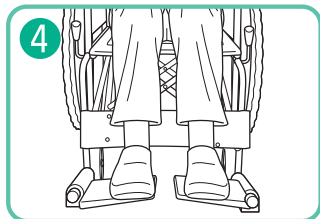
② フットサポートを両側上げます。



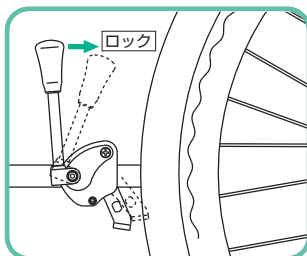
③ 両手で、アームサポートを持ち
ゆっくり座り込みます。



④ フットサポートに足を乗せます。

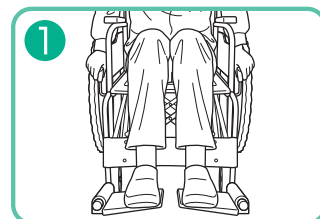


駐車用ブレーキ

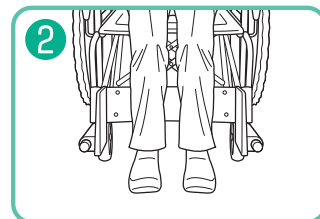


降りる時

① 駐車用ブレーキを両側ロックします。



② フットサポートを上げ、足を下ろします。



③ 両手で、アームサポートを持ち
ゆっくり立ち上がります。



警告

●フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
(車椅子がバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。)



警告

●乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。
(レバーが変形・破損し、転倒する恐れがあります。)



警告

●乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないように注意してください。
(けがをする恐れがあります。)



注意

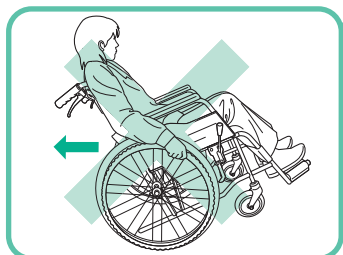
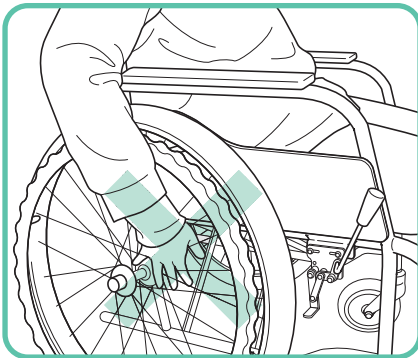
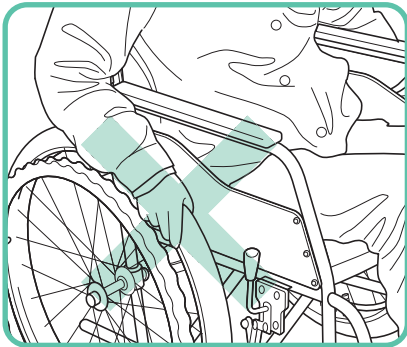
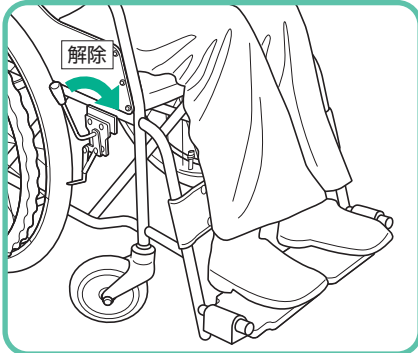
●フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。
(けがをする恐れがあります。)

動かし方

一般的な動かし方

(自走用車椅子の場合)

駐車用ブレーキを両側解除する。



ハンドリムを握り車輪を
回転させ移動させる。



注意

●タイヤを持って車椅子を操作しないでください。
(ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。)



警告

●走行スピードは各自コントロールできる速度で走行
してください。



警告

●駐車用ブレーキで減速しないでください。
※減速はハンドリムにて行ってください。
但し、スピードが出すぎている場合は、
摩擦でケガをする恐れがあります。



警告

●走行中、身体を乗り出さないでください。
(バランスが不安定になり、転倒・転落事故の
原因となります。)



注意

●車輪に、体の一部や物を差し込まないでください。
(手や指をはさんで、ケガをする原因となります。)

※このような場合にはオプションのスポークカバーの
使用をおすすめします。



注意

●バックしながら急停止しないでください。
(転倒事故の原因となります。)



注意

●フットサポートの下には足を入れないでください。
(足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足を
ぶつけてけがをする恐れがあります。)



注意

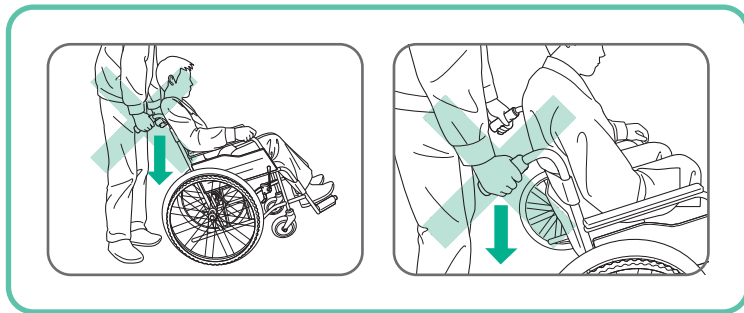
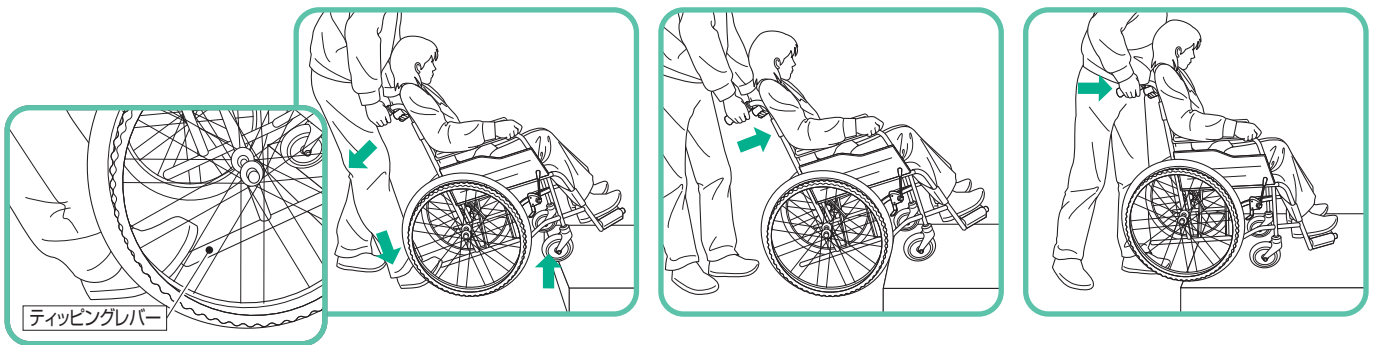
●足こぎで操作される場合、フットサポートに足をぶつけないで
ください。(けがをする恐れがあります。)

介助の仕方

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。介助者が付き添っていない場合は周りの人に介助をお願いしてください。

- ・坂道
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・乗り物への乗車、下車
- ・段差乗り越え
- ・傾斜している路面

介助者の方は、段差を乗り越える場合は、ティッピングレバーを踏みながらグリップを手前に引きキャスト(前輪)を上げ、前輪を段差に乗せてから、前方に押し出すように乗り越えてください。

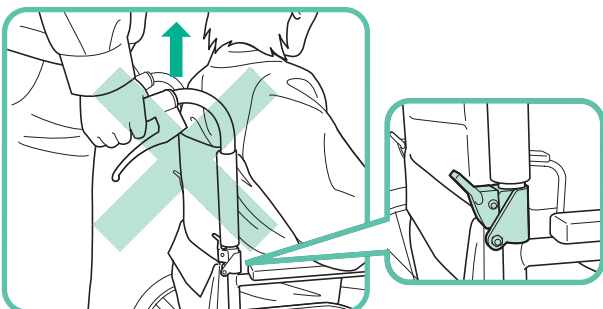


⚠ 注意

- グリップのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。
(バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒して事故の原因となります。)

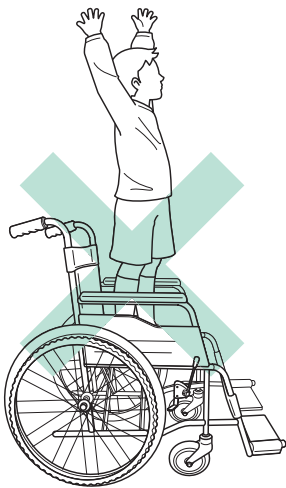
⚠ 警告

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
(使用者が車椅子から転落して、事故の原因となります。)



⚠ 注意

- バックサポートが折りたたみの場合は、使用者が車椅子に乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。
(パイプが外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。)



警告

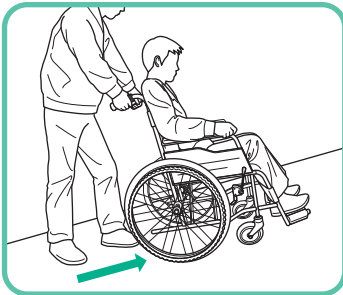
- 車椅子のシートの上で立ち上がらないでください。
(転倒事故の原因となります。)

外出時の注意

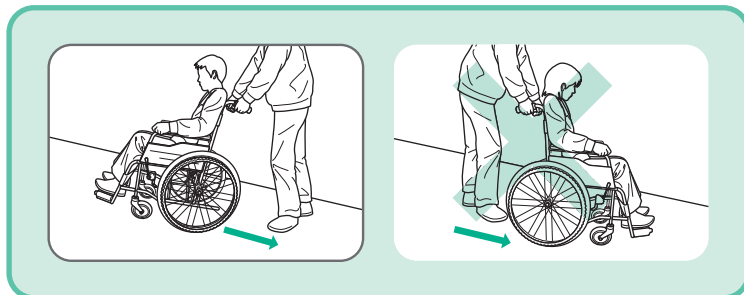
介助者援助をお願いしてください。

坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。

登り坂

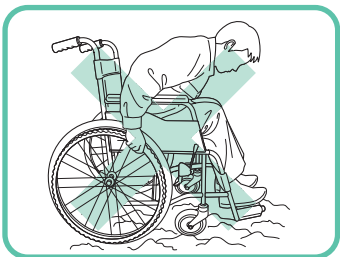


下り坂



注意

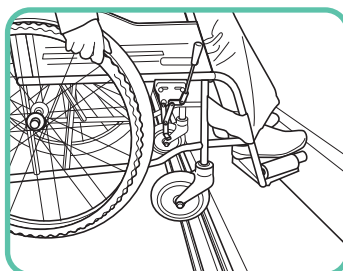
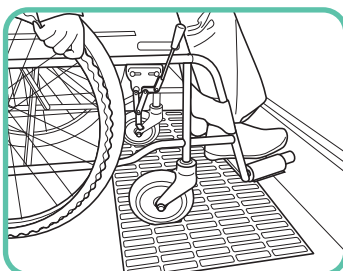
- 坂道を下るとき介助者の方は、車椅子を後ろ向きでゆっくり後方を確認しながら走行してください。
(前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。)



注意

- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
(バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。)

介助者援助をお願いしてください。



警告

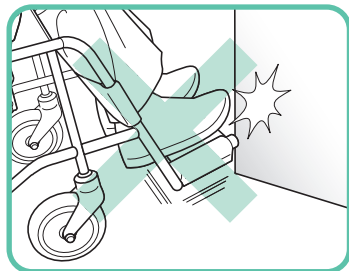
- 側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。
(車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。)



注意

- 側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
(車椅子が急に止まり使用者の体が前方に傾き、転倒・転落事故の原因となります。)

【介助者の方へ】



注意

●移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。



注意

●フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

車椅子を持ち上げようとして次のような箇所は、持たないでください。

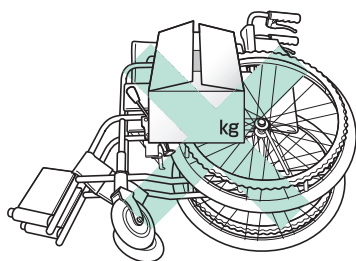
- ・バックサポートが折りたたみ式のバックサポートパイプ部
- ・アームサポートが可動式のアームサポート部
- ・フット・レッグサポートが可動式のフット・レッグサポート部
- ・車輪



■階段などで、使用者が乗ったままの状態、介助者に吊り上げてもらう場合

ベースパイプ・バックサポートの固定されている箇所を持って、4~5人で支えてもらってください。

その他の注意



注意

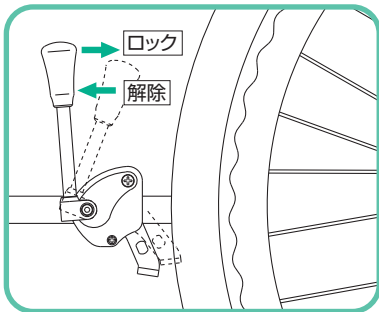
●車椅子を横向きに倒して、上に物を置かないでください。
(重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因になります。)

各部機能の使用法

ブレーキの使用法

- ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に引くと解除します。

駐車用ブレーキ



警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。(P.6 ご使用の前に参照)
(ブレーキのロックが出来なくなり、車椅子が動いたりして、事故の原因となります。)

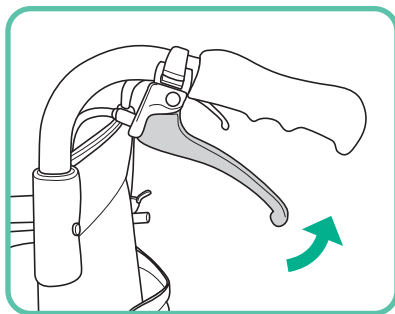


警告

- 車椅子に乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
(車椅子が動き、転倒事故の原因となります。)

制動用ブレーキ

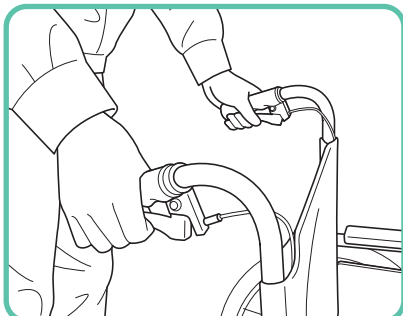
- レバーを握るとブレーキがかかります。
- レバーを離すと解除します。



注意

- 急ブレーキをかけないでください。
(車椅子に乗っている方が前方へ転倒する恐れがあります。)

介助者の方が走行中や下り坂での速度減速及び停止に、ご使用ください。



注意

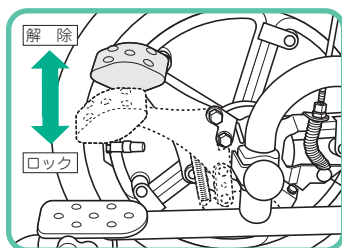
- 介助者の方は、制動用ブレーキレバーを、両側同時にかけてください。
(バランスを崩し、転倒事故の原因となります。)



注意

- ブレーキワイヤは、安全のため定期的に交換してください。
(交換の目安:1年に1度)

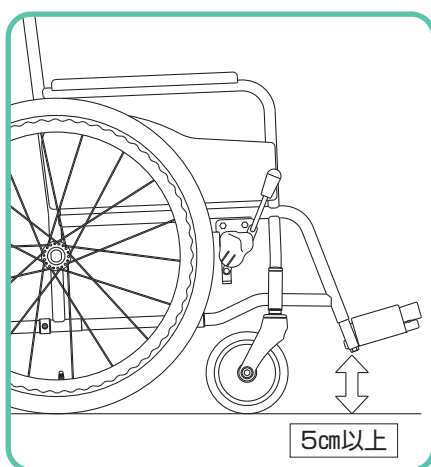
ドラロック(フットブレーキ)



ドラム式介助ブレーキ(制動用ブレーキ)にフットブレーキを一体化したブレーキです。ドラム部分でロックするのでブレーキの制動力がタイヤの空気圧に影響されません。

- ブレーキペダルを足で踏み込むとロックします。
- 上げるとロックが解除されます。

フットサポートの調整

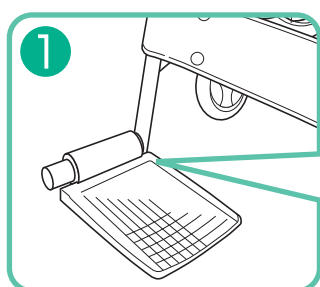


⚠ 注意

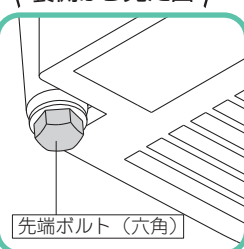
- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。
(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車椅子が止まり、転倒事故の原因になります。)

〈高さ(長さ)の調整〉

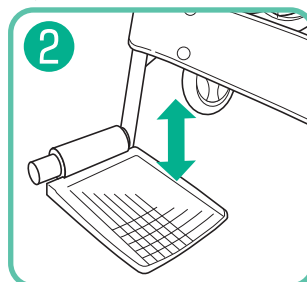
- 1 フットサポートを少し上げ、付属品のスパナで先端ボルトを少し動くところまで緩める。



フットサポート
裏側から見た図



- 2 高さを調整し、先端ボルトを締める。



⚠ 注意

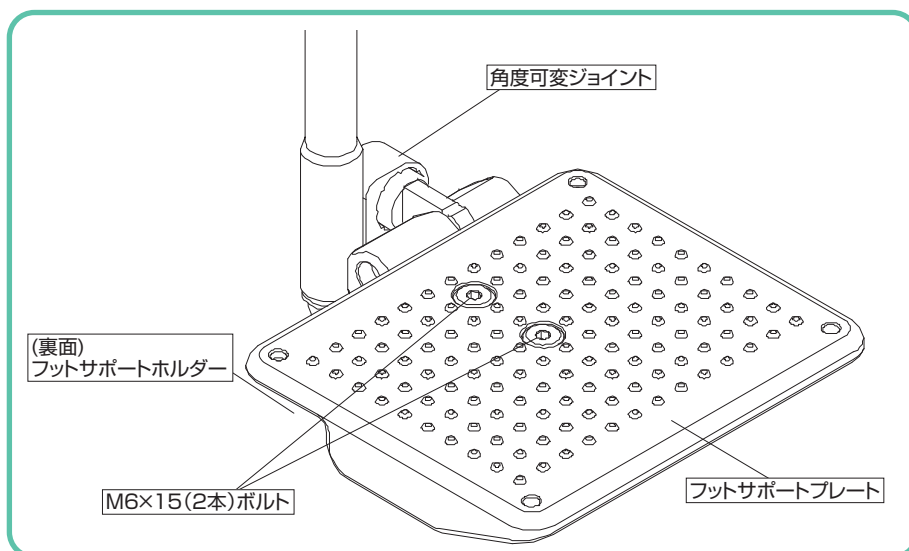
- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
(フットサポートが脱落し事故の原因になります。)

※適正トルク
12.5Nm

アジャスタブルフットサポート(前後左右&角度調整)

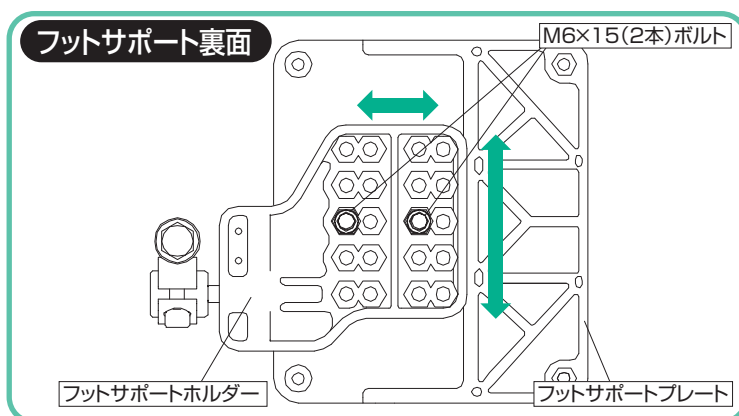
※適正トルク M6×15…10Nm

各部名称



前後左右調整方法

- 1 M6×15(2本)ボルトを取り外します。
※このとき、フットサポートホルダーの裏面のナット(2個)を無くさないようにしてください。
- 2 前後(15mm間隔)、左右(10mm間隔)に調整してください。
※このとき、フットサポートがキャストに干渉していないか確認してください。
- 3 M6×15(2本)ボルトを締めてください。

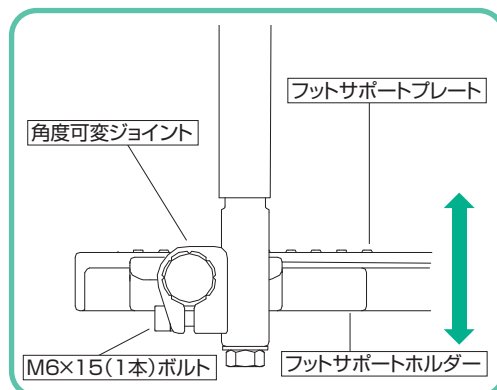


注意

- ボルトは必ず締めてください。
(フットサポートが外れ、ケガをする恐れがあります。)

角度調整方法

- 角度調整を行う際は、フットサポートプレートを上げた状態で行ってください。
- 1 M6×15(1本)ボルトを緩めてください。
※このとき、スプリングワッシャーを無くさないようにしてください。
 - 2 フットサポートの全体をしっかりと持ち、最適な位置へ角度を変更してください。
※このときフットサポートホルダーと角度可変ジョイントの間にすき間がないようにしてください。
 - 3 M6×15(1本)ボルトを締めてください。



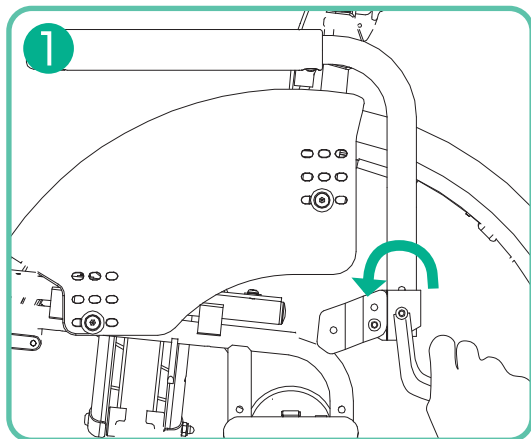
注意

- ボルトは必ず締めてください。
(フットサポートの角度が急に変わったり、外れたりして、ケガをする恐れがあります。)

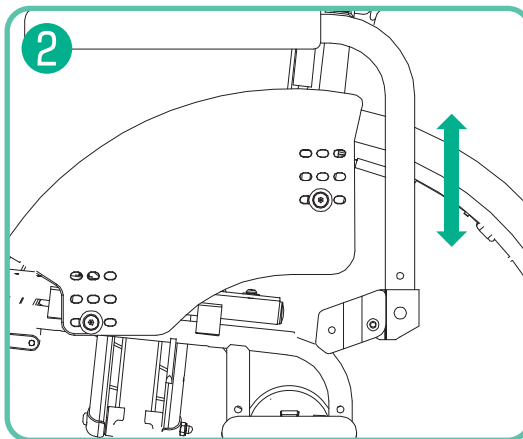
アームサポートの高さ調整

※適正トルク M6×20…10Nm

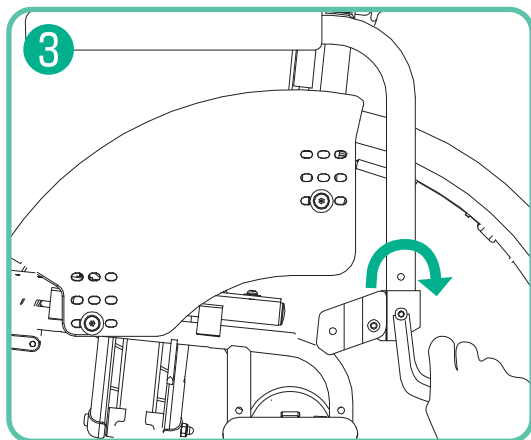
- ① アームサポートを取り付けているボルトを取り外します。(ワッシャー、ナットを失くさないよう注意してください。)



- ② アームサポートを適当な高さに調整します。高さは4段階調整できます。



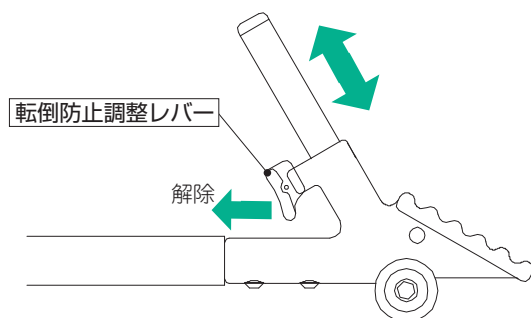
- ③ アームサポートと本体のネジ穴位置を合わせ、ボルトで締めます。アームサポートが固定されていることを確認してください。



注意

- アームサポートが確実に固定されていることを確認してください。(ケガ、転倒・転落の事故原因となります。)

転倒防止の使用法



- 車椅子が後方へ転倒することを防ぎます。転倒防止の高さは4段階調整出来ます。調整は転倒防止調整レバーにて行います。

- ① 転倒防止調整レバーを解除します。
- ② 転倒防止を適当な位置にします。
- ③ 転倒防止調整レバーをロック位置にします。

注意

- 転倒防止から「カチッ」と音がして、確実にロックされていることを確認してください。

ポケット

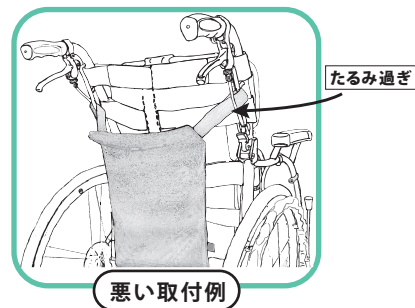
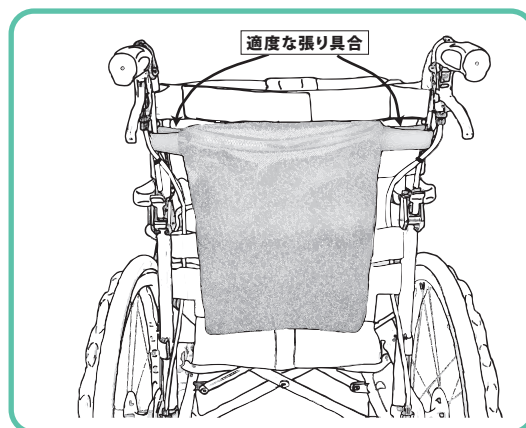
ポケット耐荷重1Kg

- ・背もたれ後ろの取り外し式ポケットは、できる限りサイドのベルトを張った状態にてご使用ください。



注意

- 張り過ぎて背もたれパイプが内側へ倒れないようにご注意ください。

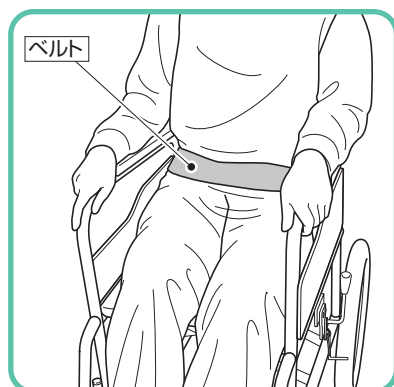


車椅子のオプション

車椅子をより使いやすくするために、いろいろなオプションがあります。
(車椅子により取り付けできない場合がございます。販売店、または松永製作所までご相談ください。)

各種ベルト

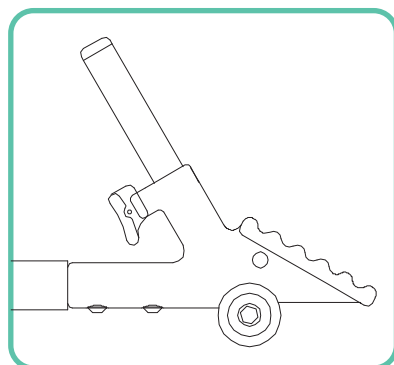
●使用者が、車椅子から転落・ずり落ちを防止します。



! 注意

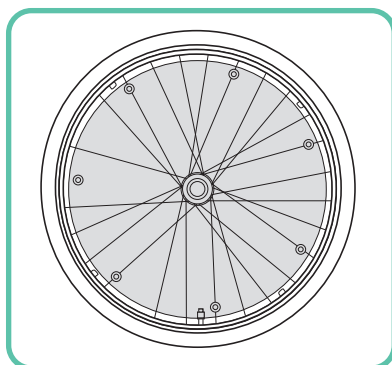
●マジックテープに付いた糸くずや汚れを取り除いてください。
(粘着力が弱くなり衝撃を受けた時に外れ、転落事故の原因となります。)

転倒防止



車椅子が後方へ倒れることを防止します。

スポークカバー



車輪(スポーク)に手を入れケガをすることを防止します。

その他

- テーブル
 - ボンベ架
 - 泥よけ(介助のみ)
 - 杖入れ
- などご用意しております。

詳しくは、カタログをご覧ください。

もしこんなトラブルが発生したときは

車椅子をご使用されていて「故障かな」と思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
タイヤの空気が少ない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気入れ部のネジは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	・スーパーバルブ(または虫ゴム)が劣化していませんか	スーパーバルブ(または虫ゴム)を交換してください
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・駆動輪・キャストに髪の毛、ビニール等が巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト(前輪)が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
バックサポート折りたたみのロックピンが入らない	・車椅子を払って、バックサポートを折りたたみしていませんか	車椅子を折りたたんで、行ってください
制動用ブレーキが効かない	・ワイヤーが、ねじれていませんか	ワイヤーのねじれを調整してください
	・ワイヤーの遊びが多くありませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・タイヤは、摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください

車椅子のお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。

揮発性剤(シンナー・ベンジン・アルコール類)では、清掃しないでください。

変色したり、劣化の原因となります。

ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤの空気圧は、最適空気圧を適正に保ってください。

空気圧が低いときは、補充してください。

■タイヤには、ひび割れを防ぐ為に劣化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン(O₃)
- 光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質
- シリコン系ワックス(自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤(錆落とし剤含む))

■車椅子に異常がある場合は、取扱店で、点検・修理を行ってください。

そのままの状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤ・キャスト輪の劣化・ひび割れ・空気漏れ
- フレームのひび割れ・曲がり・ガタツキ
- 各部固定部品の変形
- 駆動輪・キャストの変形
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- 制動用ブレーキ・駐車用ブレーキの効き具合

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。
故障の原因となります。

- 雨に濡れるところ
- 直射日光が当たるところ
- 湿気の多いところ
- 高温になる場所(45度以上)
- 炎天下

保証

- 保証期間は、お買い上げ後1カ年です。(本体、付属品共)
ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。修理に要する運賃等の諸経費を含みます。
 1. 火災、天災による故障・損傷の場合
 2. 取扱説明書に記載の使用方法、ご注意に反するお取り扱いによって発生した故障の場合
 3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
 4. タイヤの摩耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ、制動用ブレーキ用ワイヤー、ブレーキゴム、キャスト、各部ベアリング等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
- この保証書は日本国内のみ有効です。
- 保証修理をお受けになる場合は、必ず保証書をご提示ください。
保証書の提示がない場合には、保証修理をお受け致しかねます。
- 保証書はお買い上げ店で発行致します。記入漏れがあると、保証期間内でも保証修理が受けられません。
- 保証書の再発行は致しません。大切に保管してください。

アフターサービス

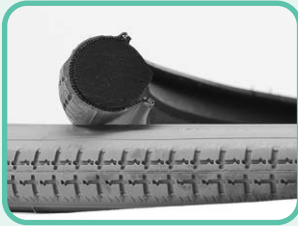
万一故障の場合は、お買い上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。

空気圧管理不要タイヤメンテナンス方法

●空気圧管理不要タイヤはオプションです。

空気圧管理不要タイヤ

〈ハイブリッドタイヤ〉



安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤ表面の摩耗・亀裂。
- ・スムーズな回転、異音 等。
- ・車輪のホイールの傷の有無。
- ・駐車用ブレーキでロックした際、駆動輪・主輪は回転しないか。
- ・スポークの緩み、損傷 等。

※空気圧管理不要タイヤの交換目安は、お買い上げ後2カ年です。
(使用環境、使用頻度、使用状況による。)

※空気管理不要タイヤには、ウレタン素材を使用している物があります。
この素材は、水と反応し分解する(加水分解)性質があり、その結果タイヤのヒビワレ、
表面の剥離など発生する場合があります。メンテナンスの際には、十分に水分を拭き取ったあと
風通しの良い日陰でよく乾燥させてください。(直射日光は避けてください。)

※保管時にも、高温多湿、雨、直射日光に注意してください。

保守・点検

車椅子 点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店(有料)で定期的に点検をしていただくようお願いいたします。

(長期間ご使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください)

点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目		年月日 点検者					
キャスト(前輪)	亀裂・キズの有無						
	キャストの摩耗						
	スムーズな回転						
キャストフォーク	損傷の有無						
	スムーズな旋回						
	タイヤの空気圧						
駆動輪・主輪	タイヤの摩耗						
	スムーズな回転						
	ホイールのキズの有無						
	スポークの緩み(自走のみ)						
本体・ クロスフレーム	各部キズの有無						
	ボルト・ナットの緩み						
	スムーズな折りたたみ						
駐車用ブレーキ	ブレーキの効き						
制動用ブレーキ	ブレーキの効き						
バックサポート (背もたれ)・シート	シートの破れ・損傷						
	シート固定ネジの緩み						
フットサポート	プレートの破損						
アームサポート	固定ボルトの緩み						
	パッドの破損						
その他							

消耗品・交換部品

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。

品名	交換時期
駆動輪・主輪	タイヤの表面に溝がなくなったとき
キャスト	タイヤの表面に溝がなくなったとき
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき ひどく汚れたとき マジックテープの接着が弱くなったとき
ワイヤ	ワイヤにほつれ、亀裂、サビが発生したとき スムーズに動作しなくなったとき



株式会社 松永製作所

〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484
TEL 0584-35-1180(代) FAX 0584-35-1270
URL <http://www.matsunaga-w.co.jp>